

①檜山沖洋上風力発電事業の進捗

・檜山沖洋上風力発電事業について
令和7年7月30日に「促進区域」に指定された。

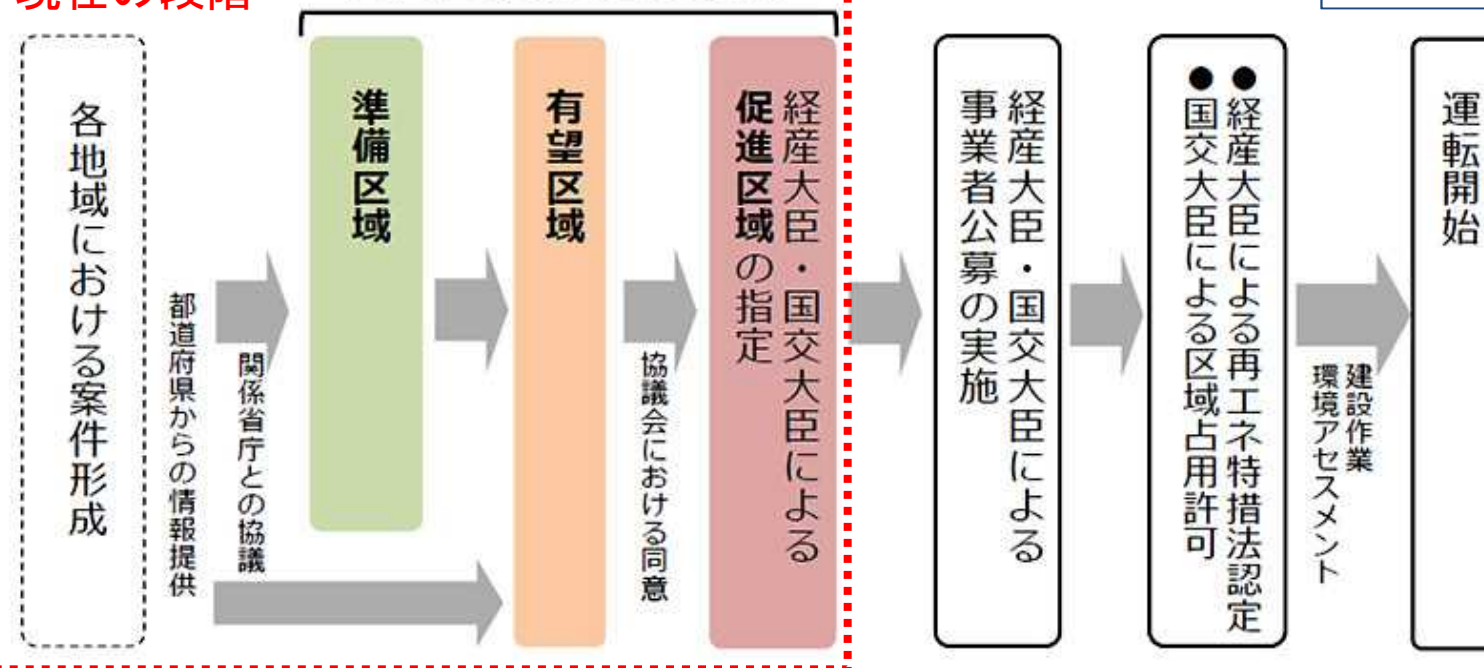
再エネ海域利用法に基づく区域指定・事業者公募の流れ

今後は以下の通り進んでいく

- ①事業者公募
- ②事業者選定・区域占有許可
- ③環境アセス、工事
- ④運転開始

現在の段階

毎年度、区域を指定・整理し、公表



有望区域の要件（促進区域指定ガイドライン）

- 促進区域の候補地があること
- 利害関係者を特定し、協議会を開始することについて同意を得ていること（協議会の設置が可能であること）
- 区域指定の基準（系統確保、風況等の自然的条件、航路・港湾・防衛との調整等）に基づき、促進区域に適していることが見込まれること

協議会の設置（再エネ海域利用法第9条＋ガイドライン）

- 有望区域では、促進区域の指定に向けた協議を行うための協議会を設置
- 国、都道府県、市町村、関係漁業者団体等の利害関係者、学識経験者等で構成
- 協議会は可能な限り公開で議論

①檜山沖洋上風力発電事業の進捗

- ・洋上風力事業を取り巻く状況について
第1ラウンドの3海域にて、選定事業者の撤退がリリースされた。

三菱商事コンソーシアムが落札した第1ラウンドの3プロジェクト (千葉銚子・秋田能代三種男鹿・秋田由利本荘) の経緯等

1. これまでの経緯

2020年11月27日	「秋田県能代市・三種町・男鹿市沖」、「秋田県由利本荘市沖」、 「千葉県銚子市沖」の各海域に関する事業者公募を実施。
2021年12月24日	<u>上記3海域全てで三菱商事コンソが選定される。</u>
選定後	2022年頃からの世界的な資材価格の高騰や、サプライチェーン逼迫、金利 上昇などの影響を受け、 <u>開発コストが大幅に上昇。</u>
2025年2月3日	<u>三菱商事から「3海域の事業性を再評価する」旨がリリース。</u>

2. 事業性再評価の結果

- 三菱商事コンソは、本年2月から事業性の再評価を進めてきた第1ラウンド3海域の洋上風力発電事業について、インフレ等の事業環境変化を受け、実行可能な事業計画を立てることが困難との結論に至り、8月27日、開発中止を決定したことを公表。
- 本事業は、地元からも大きな期待が寄せられ、多大な御協力を頂いてきた事業であるところ、三菱商事に対しては、これまでの経緯も踏まえ、地元の方々への最大限の真摯な対応を求めたところ。

3. 今後の対応

- 今後は、関係審議会（洋上風力促進ワーキンググループ）において、撤退に至った要因を検証した上で、洋上風力の事業環境変化を踏まえた公募制度の見直し等の検討を進めていく。検討の進捗状況などについては、随時、本小委員会でも御報告させていただきたい。

①檜山沖洋上風力発電事業の進捗

・洋上風力発電の導入の推進について

洋上風力発電は再エネ主力電源化に向けた切り札であり、引き続き、こうした位置付けに変わりなく、再エネ海域利用法等により積極的に導入を推進していく。

今般の制度検討の基本的な考え方

第30回洋上風力促進ワーキンググループ合同会議（2024/11/21）資料1から抜粋

- 洋上風力発電は、安価なエネルギー供給に資する電源として、我が国の電力供給の一定割合を占めることが見込まれ、急速に案件形成が進展する世界各国と同様、我が国においても、再エネ主力電源化に向けた「切り札」である。引き続き、こうした位置付けに変わりなく、再エネ海域利用法等により積極的に導入を推進していく。
- 他方で、洋上風力発電への電源投資は、大規模かつ総事業期間が長期間にわたることから、収入・費用の変動リスクに対応できる事業組成を促進することが、投資の確実性を高めていく上で重要である。実際、世界的にも、サプライチェーンの逼迫やインフレによる費用増大などによる収入・費用の変動を原因として、事業の中断や撤退も発生しており、それに対して所要の措置が講じられている。
- 今般の制度検討に当たっては、こうした世界的な情勢変化の中で、我が国における再エネ主力電源化の実現を確実なものとしていく観点から、引き続きコスト低減・迅速性を重視しつつ、収入・費用の変動といった環境変化に対して強靱な事業組成を促し、洋上風力発電への電源投資を確実に完遂させることを主軸とする。
- 具体的には、国民負担に中立的な形で、事業実施の確実性を高めるための規律強化・環境整備を進める。

①檜山沖洋上風力発電事業の進捗

・今後の制度等について

選定事業者の撤退を受けて、今後の制度等について、議論が進められている状況である。

公募制度の見直しの方向性

- 本合同会議では、第1ラウンド3海域（秋田2海域と銚子沖）の事業撤退が公表されたことを受け、**三菱商事へのヒアリング等を通じて、今般の事業撤退が生じた要因の分析等を行った。**
- その結果、以下のような**洋上風力の事業環境の課題が浮き彫りとなった**。その中には、すでに対応が整理済みのものもある。今般、対応が整理されていないものを中心に、公募制度の見直し等により対応することとしたい。

洋上風力の事業環境の課題

インフレ等による資材価格等の変動リスクへの対応が不十分な供給価格の設定

入札前に事業者提供される促進区域における地盤等のデータ提供の方法

再エネ価値を高く評価する需要家の不足

風車メーカーやサプライヤー等との価格交渉力の確保のしづらさ

海外のサプライチェーンへの依存

事業実現性が相対的に過小評価され得る価格点の設計

撤退時におけるルール不明確さ

基地港湾の柔軟な利用のあり方

供給価格の決定からファイナンスクローズに至るまでの期間の長さ

整理済み/対応中

価格調整スキーム（次回公募より導入）

JOGMECによるサイト調査

再エネ大量導入・次世代電力NW小委での議論

風車メーカー等の変更に係る計画変更の要件の整理

洋上風力のサプライチェーン強靱化に向けた生産設備投資への支援

今般の制度見直し・事業環境整備

IV. 供給価格下限額の設定

III. 迅速性の配点の引下げとスケジュールの柔軟性の確保

I. 電力安定供給・サプライチェーン形成の配点の引上げ

I. 事業計画の実行面の配点の引上げ

II. より精緻な事業実現性の採点

IV. 供給価格下限額の設定

VI. 選定事業者が撤退した際のルール設定

基地港湾の柔軟な利用を促進する仕組みの構築（※1）

事業者選定と供給価格の決定を別途行う2段階方式の導入（※2）

※1：資料2に記載した事業環境整備

※2：今後検討する中長期的な課題

②風海鳥の現況について

せたな風海鳥撤去のための環境調査・風車劣化度調査

2025年12月3日



ZERO CARBON
HOKKAIDO
SETANA

②せたな風海鳥撤去のための環境調査・風車劣化度調査

『洋上風力発電施設撤去調査設計業務』

本業務は、洋上風力発電施設「風海鳥」の撤去にあたり、必要となる各種調査、関係機関との調整、解体工事実設計と行うもの。

(1)現地調査

- ・基礎構造物の劣化度調査

- ・海底環境における底質、水生生物、底生生物、付着生物の調査

- ・現地調査結果の検討、とりまとめ

(2)残置設備検討及び専門的知見の反映

- ・老朽化進行予測の検討

- ・健全度評価、現状特性の把握、目標の設定、設置残量の検討等

(3)実施設計業務

- a)撤去方法

- b)環境保全措置

- c)安全対策

- d)廃棄物処理

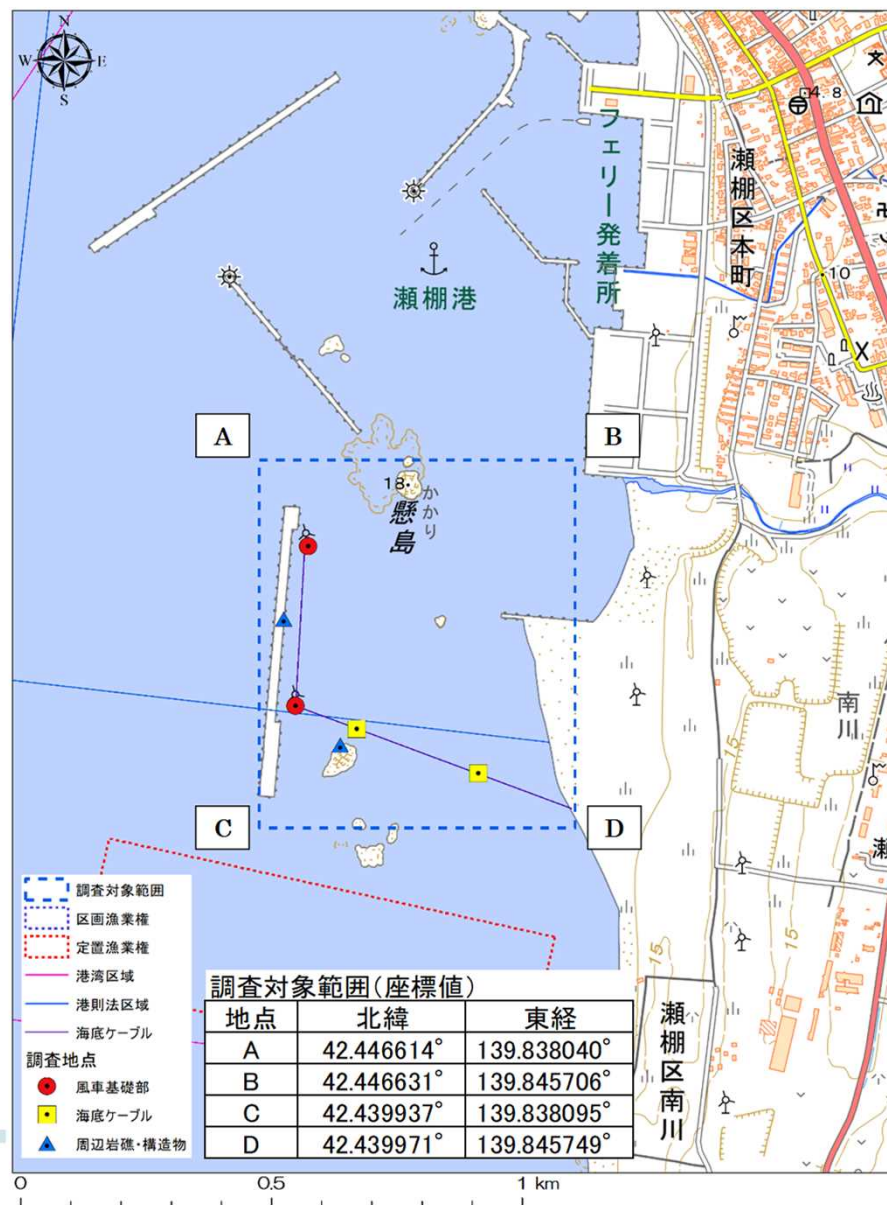
- e)その他

- f)成果品とりまとめ

(4)基本計画説明書の作成

(5)関係機関との協議等

②せたな風海鳥撤去のための環境調査・風車劣化度調査



仕様カテゴリ	調査項目
海底環境における底質、水生生物、底生生物、付着生物の調査	水質調査
	底質調査
	底生生物調査
	付着生物調査
	魚類蜻集調査
基礎構造物の劣化度調査	目視調査
	肉厚測定
	陽極消耗量調査
	電位測定



3. せたな風海鳥撤去のための環境調査・風車劣化度調査

海底環境における底質、水生生物、底生生物、付着生物の調査



採泥作業



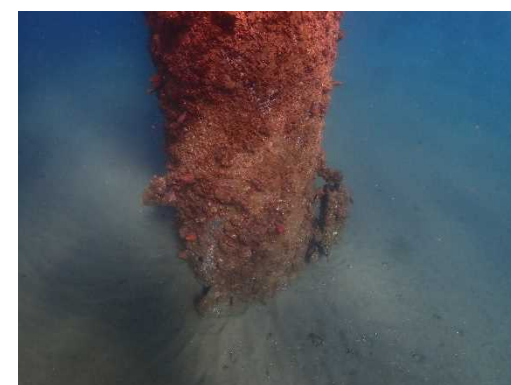
周辺岩礁部



潜水調査



坪狩り採取物



1号機基礎部

②せたな風海鳥撤去のための環境調査・風車劣化度調査の実施

基礎構造物の劣化度調査



電位測定作業



陽極消耗量調査



肉厚測定



目視調査

③環境学習の実施状況について

(1) 北檜山中学校でのマレーシア留学生との交流

令和7年9月2～3日に国際交流事業の一環として、酪農学園大学のマレーシアからの留学生と北檜山中学校の生徒で交流を図りました。

(2) 北檜山小学校での環境教育(予定)

12月12日(金)に、風力発電の仕組み等に関する環境教育を実施予定です。



書道体験



マレーシア紹介とクイズ